

(金のエンジェル賞 小学生中高学年の部)

## 心のコンパス

小三・荒木 結子

「もう知らない！ 新しいお姉ちゃん、さがしに行くんだから。」  
お姉ちゃんったら、近くの公園に行くやくそくしてたのに。ねっ  
中しようがあぶないなんて、もっともらしい言いわけしてもだまされ  
ないからね。いつもお姉ちゃんの言う通りなんて、いやになっちゃ  
う。わたしの気もちもつと大切にしておいてほしい。ココは、早速自  
分のリュックにあいぼうのクマのぬいぐるみや地図を入れると、げん  
かんへむかった。お母さんが気をつけてね、と水とうとおにぎりを  
わたしてくれた。それから迷子にならないように、コンパスも。ほ  
らね、またお古。妹ってそんな生き物だと思いと、理想のお姉ちゃ  
んさがしへの意よくがメラメラとわいてきた。

ココは近所の公園に着くと地図を広げた。さあて、どんなお姉ちゃん  
がいいかな。やっぱり面白いお姉ちゃんがいいよね。いっしょ  
にいるとたくさんわらえて、元気になっちゃうような。考えている  
と、とつぜん地図の上でコンパスのほりがぐるぐる回りだし、南東  
をさしてピタッと止まった。何これ、もしかしてお姉ちゃんさがし  
にきょう力してくれるの？ ラッキー。ココはコンパスのほりがさ  
す方へぐんぐん歩いた。何度も角を曲がった所ではりは、またピタ  
ッと止まった。その先に黄色いワンピースの女の子がいた。あの  
人が新しいお姉ちゃん！ むねがワクワクした。となりに小さな女の  
子をつれて、話しかけているようだ。

「今日の夕はんのカレーはかれえ。サラダにトマトが止まっとる。」

ダジャレを言ってるのは、だれじゃ！」

えっと、面白いっていうか、古すぎ。ちよっとさむい感じ。

「お姉ちゃん、ふざけてないで、たのまれた買い物行くよ！ おそくなるよ、お母さん心ばいするよ。」

わあ、しつかりしてる妹さん。お姉さんがお調子者だと、妹はあなるよねえ。さがしているお姉ちゃんとは、ちよっとちがうかな。やっぱりお姉ちゃんと言えば、たよりになる人。そうそう今度の運動会のために、苦手なりレーのれん習につきあってくれるような。

するとコンパスがまた回りだし、西をむいてピタッと止まった。ずんずん歩いていくと、かわらに赤いワンピースの女の子がいた。小さな男の子がその女の子をめざして、走っている。そう、あんな感じ。ココが近づいていくと、

「ほらもっとわきをしめて、うでをふるの！地面はとぶようにける！ ああ、まだ体かんが弱いよねえ。家に帰ったらバランスボールのとくべつメニューつかしなくちゃ！」

わあ、たよりになるっていうか、オニコーチよね、あれじゃ。男の子も、なみだぐんでいる。さがしているお姉ちゃんではないかな。お姉ちゃんっていうのは、もっところ、やさしいものなのよ。

するとコンパスがまたまた回りだし、ピタッと北をむいて止まった。どんどん歩いていくと、広い公園に青色のワンピースの女の子がいた。小さな女の子のあとを、ついて行ってる。あ、花だんのお花をつみだした！ ココがいそいでかけよると、

「このお花、きれいだよねえ。サラは目のつけどころがいいわ。さすがわたしの自まんの妹だわ。」

え、立ち入りきん止って書いてあるのに。ダメなことは、お姉ちゃんなんだから、教えてあげなきゃ。やさしいっていうより、姉バ

カッていうか。あれじゃいい子に育たないな。さがしているお姉ちゃんとは、ちがうかな。

たくさん歩き回ってつかれたから、ちよつと休けい。ベンチで水とうのお茶をのみ、おにぎりを食べた。具は、うめぼしだった。さい後の一つをどちらが食べるか、朝けんかしたやつだ。お姉ちゃん、わたしのおにぎりに入れていいよって言ったのかな。食べ物につられないぞ！ 相ぼうのクマに話しかけた。あ、この子、どうしてもほしいって三才の時、お姉ちゃんにゆずってもらったのだった。コンパスに目をやると、リリとお姉ちゃんの名前シールがはってある。ココは顔を上げた。この公園、はじめてだな。地図で見つけてずつと行ってみたかったけれど、遠いからってお母さんはなかなかつれて行ってくれなくて。ちゃんと帰れるかな。

ああ、お姉ちゃんだったら、おつかいのおつりでわたしのすきなおかしをえらんでいいよって言うてくれて、リレーはココならだいいょうぶ、って言うて、いっしょに走ってくれて、花だんのお花も生きてるから、つんだらかわいそうだよ、いっしょに見ようね、つて手をつないでくれて。

ぐつとなみだをこらえていると、コンパスはまたぐるぐると回りだした。そしてぐんつとはりが曲がって、なんと上をむいた。おどろいて顔を上げると、お姉ちゃんが目の前に立っていた。

「やっぱりここだった。ココ、ずっとこの公園に行ってみたって言ってたからね。わたしには、お見通し。何年ココのお姉ちゃんやってると思ってるの。」

お姉ちゃんはてれくさそうに、手をさし出し、わたしはギュッとその手をつかんだ。

「さあ、帰りにだがしやで、ココのすきなラムネとおせんべい買お



う。

さがしていたお姉ちゃんに、ぶじに出会えた。

画：ながしまひろみ

---